

対称詞に見ることばの性差について

—ドラマの会話を資料として—

張 文 博 劉 爽 川 口 良

A Study on Gender Differences in Use of Addressee-referring Terms :

Analyzing Conversations in TV Dramas

Zhang Wenbo, Liu Shuang, Kawaguchi Ryo

日语的自称词和对称词中存在男女差，特别是对称词的不恰当使用可能会损坏人际关系。本稿的目的是明确电视剧对话中所使用对称词的性别差，将对称词分为以下8类：①役職名②2人称代名詞③～さん④～ちゃん⑤～くん⑥呼び捨て⑦愛称⑧親族名称。得出如下结果：男性多用「2人称代名詞」，女性多用「役職名」，「～くん」。在「2人称代名詞」中，「あんた」「おまえ」用于较亲密的男女之间，特指听话人，并有经常用在强烈表达对听话人不满或者爱意等场合的倾向。女性对男性使用的「役職名」、「～くん」和男性对女性使用的「姓の呼び捨て」，体现了原职场的人际关系；男女之间使用的「名前呼び捨て」用于男女成为恋人关系之后，体现了人际关系的变化。通过上述结果，我们认为电视剧中的对称词是表现男女当时的心理以及自他关系的认知的一种手段。

1. はじめに

日本語には「女ことば」と「男ことば」があり、その話し手の性差は特に文末形式と人称詞に現れやすいとされる（益岡・田窪1992、尾崎2005、など）。特に、対称詞の使用は、話し手と聞き手の関係、話題、場面などに依存することが多く、対称詞の不適切な使用は人間関係を損なう可能性があるため、日本語学習者にとっては重要な学習項目と言える。しかしながら、中国の日本語教科書¹を調べたところ、会話文に出てくる対称詞は「～さん」「あなた」のみで、それに関する説明もなかった。対称詞の使用にも性差が存在することを、日本のテレビドラマを見ていて気が付いた。「きみ」という2人称代名詞は男性に多く使われているような印象を受けたが、女性が使う場面もあった。日本語教科書には載っていない対称詞「あんた」「おまえ」などの2人称代名詞も多く使われていた。

以上のことから、筆者らは日本語における対称詞の用法に深く興味を持つようになった。特に、筆者らと同年代の日本の若者たちはどのように対称詞を用いているのだろうか。また、それは日本語の特徴と言われる「女ことば」「男ことば」とどのような関係があるのだろうか。そのような動機に基づき、本稿では、若者を中心としたテレビドラマの会話を言語資料として、その中で用いられる対称詞について、性差の観点から明らかにすることを目的としている。

2. 先行研究及び研究課題

2.1 先行研究

日本語における対称詞の性差に関しては、小池編（2003）に次のよう

¹ 上海外語教育出版社（2009）『新編日語』、北京大学出版社（2009）『総合日語』

な記述がある。

2人称代名詞としては、「あなた」は男女共通にフォーマルな場面で使われる。「あんた」は「あなた」の変化形で、男女共通に用いられるが、インフォーマルに目下に対してのみ使われる。男性専用語としては、「おたく」「きみ」「おまえ」「きさま」「てめえ」がある。「きみ」は、同等または目下の相手に呼びかける一般的な語である。女性専用の2人称代名詞は特にないが、「あなた」の使用範囲が男性より広い。しかし日本語では、日常会話ではできるだけ2人称代名詞を使わない傾向がある。文脈で使われる限りはなるべく省略したり、名前・役職名・職業名などを繰り返すほうが好まれる。

(p.193)

以上の記述から、男女に共通してフォーマルな場面で「あなた」、インフォーマルな場面で目下に対して「あんた」が用いられること、男性専用語として「おたく」「きみ」「おまえ」「きさま」「てめえ」があること、そのうち「きみ」は同等または目下の相手に対して用いられること、女性専用の2人称代名詞はないが、「あなた」が男性より広く用いられること、といった2人称代名詞における性差が理解される。しかしながら、「日本語では、日常会話ではできるだけ2人称代名詞を使わない傾向」があり、聞き手を指す場合、2人称代名詞よりも名前・役職名・職業名・親族名称を表す名詞が使われることが多い。鈴木(1982)は、「発話の中で話者が自分自身を指示したり、自分自身に言及するために用いる語」を「自称詞」、「話者が発話に際して、発話の相手を指示したり、あるいは言及したりする語」を「対称詞」と定義している(p.19)。本稿では鈴木(1982)の定義に従い、2人称代名詞を含め、発話の相手、

つまり聞き手を指すことばを「対称詞」と呼ぶことにする。

対称詞と性差に関する主な先行研究として、金丸（1997）、小林（1999）、黒須（2008）、チツラ（2012）を挙げる。まず、金丸（1997）では、「学校における呼称」と「夫婦間における呼称」について1992年に行ったアンケート調査の結果が報告されている。「学校における呼称」は、女子生徒や女性教師が男子生徒を「クン」付けで呼ぶことは当然であり、「姓や名の呼び捨て」も一般的になりつつある」（p.22）ことを指摘し、「夫婦間における呼称」は、夫に対する呼称として「お父さん」、妻に対する呼称として「お母さん」が最も多かったという。小林（1999）は、職場における実際の談話を資料として、自称詞・対称詞についてその男女差を調査した。対称詞に関する結果として、女性の対称詞に男性専用とされた「姓の呼び捨て」が見られたこと、女性の方が男性に比してインフォーマルな方向に自由にことばを選択している傾向があること、などを報告している。黒須（2008）は、1946年から2005年までの小説60作品の会話文を資料として、文末詞、自称詞・対称詞、感動詞の男女差及びその変遷を調査した。対称詞に関しては、「あなた」が女性的対称詞であるのに対して「姓のみ」「きみ」「おまえ」が男性的対称詞であることを明らかにし、男女ともに現代に近づくにつれて砕けたものになっていると述べている。さらに、チツラ（2012）は、大学生を対象として、「学校」、「プライベート」、「アルバイト」という三つの場面を設定し、聞き手との年齢差、性別を考慮に入れたアンケート調査を行っている。その結果、「対称詞の選択には、話し手と聞き手の間の上下関係、並びに親密度、及び、女性に特徴的な神経心理的思考プロセスである共感化が働いている」（p.31）ことを明らかにした。

2.2 研究課題

以上の先行研究を見ると、金丸（1997）、チツラ（2012）は、アン

ケートを用いた意識調査であり、小林（1999）は実際の談話を資料としているものの、場面が「職場」に限られている。黒須（2008）は小説の会話文を対象としているため、読者に人物の性別を分かりやすく示す必要性から、ステレオタイプ的な傾向が推測される。

そこで、本稿では、日常生活の会話に近く、現代の若者が用いる数多くの対称詞の収集が期待されるドラマの会話を資料として、その対称詞の使用における性差を観察することにし、研究課題として以下の2点を設定する。

- (1) ドラマの会話における対称詞の使用にはどのように性差が現れているか。
- (2) 対称詞の性差は、話し手と聞き手の社会的上下親疎関係とどのような関係があるか。

3. 調査概要

3.1 調査対象

調査資料として、日常生活に極めて近く、若者を中心としたテレビドラマ『ダメな私に恋してください』（TBSテレビ、2016年1月12日～3月15日毎週火曜日22時～23時放送、以下『ダメ恋』と表記する）と『好きな人がいること』（フジテレビ、2016年7月11日～9月19日毎週月曜日21時～22時放送、以下『好きな人』と表記する）の2作品を用いることにする。それぞれ第1話、第6話、第10話を調査資料とした。どちらも1話が約50分のドラマで、合計約300分のドラマの会話を調査対象とする。登場人物は、男性9名（20代5名、30代2名、40代1名、50代1名）、女性12名（20代8名、30代3名、40代1名）、合計21名である。それぞれの登場人物は社会人（19名）と大学生（2名）である。

3. 2 調査方法

まず、各ドラマに登場する人物の会話のうち、対称詞が含まれている部分を取り出して文字化した。次に、使用された対称詞を観察し、盧(2009)、チツラ(2012)などを参考にして、次のように8分類した。

- ①役職名（「主任」「部長」「社長」「マスター」「先輩」²）
- ②2人称代名詞（「あんた」「あなた」「きみ」「おまえ」）
- ③～さん（「名前+さん」「姓+さん」）
- ④～ちゃん（「名前+ちゃん」「姓+ちゃん」「愛称+ちゃん」）
- ⑤～くん（「名前+くん」「姓+くん」）
- ⑥呼び捨て（「姓のみ」「名前のみ」）
- ⑦愛称（「テリー」）
- ⑧親族名称（「姉さん（血縁関係なし）」「兄貴（血縁関係あり）」）

以下、登場人物の性別とそれぞれの対称詞の関係について考察を進めることにする。

4. 調査結果

4. 1 性別による対称詞の用法

登場人物の男女それぞれが、3. 2で示した①～⑧の対称詞をどのように用いているかを示したものが、表1及び図1である。

² 「先輩」は「役職名」ではないが、職場の元同僚に対して用いられていたため、便宜上「役職名」として分類した。

表1. 性別による対称詞の使用法

話し手	使用例数 (%)								
	① 役職名	② 2人称 代名詞	③ ～さん	④ ～ちゃん	⑤ ～くん	⑥ 呼び捨て	⑦ 愛称	⑧ 親族名称	合計
男性	2 (1.1)	75 (40.1)	44 (23.5)	12 (6.5)	2 (1.1)	45 (24.1)	5 (2.7)	2 (1.1)	187 (100.1)
女性	73 (38.6)	17 (9.0)	42 (22.2)	15 (7.9)	29 (15.3)	8 (4.2)	3 (1.6)	2 (1.1)	189 (99.9)
合計	75 (19.9)	92 (24.5)	86 (22.9)	27 (7.2)	31 (8.2)	53 (14.1)	8 (2.1)	4 (1.1)	376 (100.0)

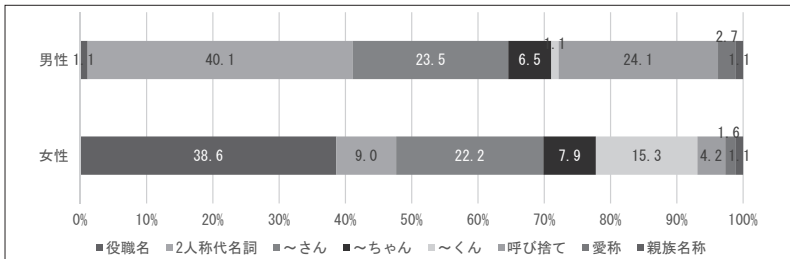


図1. 性別による対称詞の使用法

性別による顕著な違いとして、男性が使う対称詞は② 2人称代名詞が最も多く4割を占める（75例、40.1%）のに対して、女性が使う対称詞は①「役職名」が最も多く、やはり4割近くを占める（73例、38.6%）ことが挙げられる。本ドラマにおいては、男性が用いる対称詞は② 2人称代名詞が中心であるのに対して、女性が用いるのは①「役職名」が中心になっていることが分かる。次に異なるのが、⑤「～くん」と⑥「呼び捨て」の使用率である。③「～さん」、④「ちゃん」の使用率には男女の差がほとんど見られないのに対して、⑤「～くん」は男性1.1%（2例）、女性が15.3%（29例）で、女性の方が圧倒的に多い。また、⑥「呼び捨て」は、男性の24.1%（45例）に対して女性は4.2%（8例）しか用

いておらず、男性は女性の5倍以上の使用率を占めている。

以上のことを踏まえ、以降は男女差の大きい対称詞について分析を進めていくことにする。

4. 2性別による2人称代名詞の用法

まず、男女の使用率に大きな差が見られた②2人称代名詞について分析する。小池編（2003）にもあるように、日本語では日常生活においてはできるだけ2人称代名詞を使わない傾向があるが、そのような傾向に反して、男性による対称詞として2人称代名詞が最も多く用いられているのは、本ドラマの特徴として挙げられる。②2人称代名詞をさらに語によって分類したものが表2及び図2である。男性の2人称代名詞を見ると、「おまえ」が最も多く、86.7%（65例）を占めているのに対して、女性は「おまえ」を全く用いていない。「おまえ」は一般的に「男

表2. 性別による2人称代名詞の使用法

	使用例数 (%)				
	あなた	きみ	あんた	おまえ	合計
男性	1 (1.3)	7 (9.3)	2 (2.7)	65 (86.7)	75 (100.0)
女性	2 (11.8)	2 (11.8)	13 (76.5)	0 (0.0)	17 (100.1)
合計	3 (3.3)	9 (9.8)	15 (16.3)	65 (70.7)	92 (100.1)

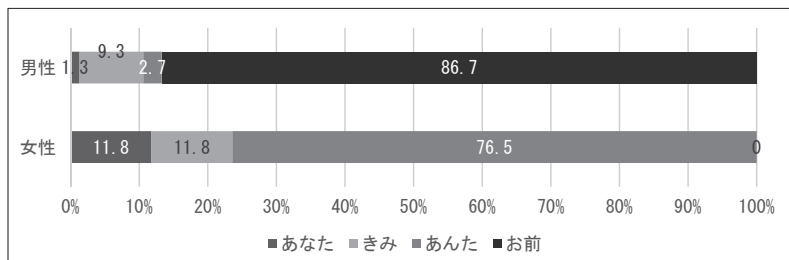


図2. 性別による2人称代名詞の使用法

性専用語」とされる 2 人称代名詞であるが（小池編2003）、本ドラマもそれに準じた使用法がなされていると言える。一方、男女共通に用いられるとされる「あんた」は、本ドラマでは、女性の 2 人称代名詞の中で最も多く用いられ（76.5%、13例）、男性にはほとんど用いられていない（2.7%、2例）ことが分かった。

次に、表 3 に、2 人称代名詞が用いられた聞き手の性別を示す。男性が最も多く用いた「おまえ」は、女性に対するものが47例で、女性に対する 2 人称代名詞の97.9%を占めている。一方、女性が最も多く用いた「あんた」は、男性に対するものが12例で、男性に対する 2 人称代名詞の80.0%を占めている。

表 3. 2 人称代名詞が用いられた聞き手の性別

		使用例数 (%)				
話し手	聞き手	あなた	きみ	あんた	おまえ	合計
男性	男性	0 (0.0)	7 (25.9)	2 (7.4)	18 (66.7)	27 (100.0)
	女性	1 (2.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	47 (97.9)	48 (100.0)
	合計	1 (1.3)	7 (9.3)	2 (2.7)	65 (86.7)	75 (100.0)
女性	男性	1 (6.7)	2 (13.3)	12 (80.0)	0 (0.0)	15 (100.0)
	女性	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
	合計	2 (11.8)	2 (11.8)	13 (76.5)	0 (0.0)	17 (100.1)

以上のことから、本ドラマにおいては、「おまえ」は男性専用の 2 人称代名詞で、その 4 分の 3 が女性に対して用いられており、「あんた」は主に女性が用いる 2 人称代名詞で、そのほとんどが男性に対して用いられていることが分かった。

以下、男性が女性に対して用いた「おまえ」と、女性が男性に対して用いた「あんた」に注目して、具体的に会話例を観察することにする。

4. 2. 1 男性が女性に対して用いた「おまえ」

男性が女性に対して用いた「おまえ」の会話例を以下に挙げる。

例（1）

柴田（女）：主任は今孤独死してもいろいろな武勇伝語ってくれる。

黒沢（男）：おまえ、頭、大丈夫？ 『ダメ恋』第1話

例（1）は女性の柴田（30歳）と男性の黒沢（35歳）の会話で、2人は元の職場の部下と上司（主任）という関係である。主人公の柴田は元上司の黒沢を「天敵」と思っているが、現在は失職して黒沢の店でのアルバイトを余儀なくされている。ここでは元部下の柴田が、黒沢の後輩から黒沢の武勇伝を聞いて「主任（黒沢）は…語ってくれる。」と普通体で話していることから、2人の親しい人間関係が窺える。黒沢は柴田の発言内容を「バカなことだ」と否定する意味で、「おまえ、頭、大丈夫？」と柴田に尋ねている。この、疑問文の文頭に用いられた「おまえ」は、文の構造上は必須のものではなく、呼びかけに近く、「相手を特定して念押しをしている」（小林1999：p.128）ものと考えられる。黒須（2008）によれば、「おまえ」は「ごく親しく敬意を必要としない人に対して使用する傾向がある」（p.192）というが、この「おまえ」という2人称代名詞によって相手を特定して「頭は大丈夫か」と、相手に大袈裟に確認していることから、黒沢も、柴田を単なる元部下というだけでなく、非常に近い関係として捉えていることが分かる。

例（２）

夏向^{かなた}（男）：やっぱおまえ、どストライクだわ。下心丸出しで、浮かれながら、中途半端に仕事して。俺、そういうやつが一番嫌いなんだよね。今までだって、ずっと、そうやって、遊び半分で働いてきたんだろ。

桜井（女）：はあ？

夏向（男）：おまえみたいなやつが作るケーキなんて、誰も食わねえから。

桜井（女）：勝手なことを言わないで。 『好きな人』第1話

例（２）は、男性の夏向（24歳）と女性の桜井（27歳）の会話である。桜井は夏向の兄に誘われて夏向の実家のレストランで働くことになったが、夏向は、家族以外の人間が実家のレストランで働くことを快く思っていない。この会話は、夏向が桜井に対して「やっぱおまえ、どストライクだわ」と、やはり「おまえ」を文頭に用いて相手を特定して、桜井に対する批判を開始する場面である。夏向は桜井を、下心丸出しで浮かれながら中途半端に仕事する人間であると断じ、「そういうやつが一番嫌いだ」と述べて、桜井に対する敵意に近い不快感を表している。さらに「おまえみたいなやつが作るケーキなんて、誰も食わねえから」と言って、桜井が作ったケーキまで攻撃し、否定している。相手に対する強い不満、不快感を述べ、相手を強く攻撃するような場面で対称詞「おまえ」が用いられていることが分かる。

次の例（３）は、例（２）と同一人物の夏向と桜井が恋人同士になったあとの会話で、ニューヨークへ旅立とうとしている桜井（美咲）を夏向が空港で引き止める場面である。

例（3）

夏向（男）：美咲、おまえが好きだ。俺がずっとそばにいてやる。

桜井（女）：でも、私今から、ニューヨーク。

夏向（男）：おまえがどこにしようとか関係ねえ。俺がそばにいてやるつつつてんだよ。だから、おまえもずっと俺のそばにいる。

桜井（女）：そばにいる。私もずーっとそばにいてやる。

『好きな人』第10話

「おまえが好きだ」「おまえがどこにしようとか関係ねえ」「おまえもずっと俺のそばにいる」の「おまえ」は、それぞれ文構造上の役割を担うものであるが、会話の中では必須ではない。つまり、やはり「おまえ」という2人称代名詞によって相手をはっきり特定した上で、その相手に対して恋心を訴えて引き止めようとする、相手への強い心情が表れていると言える。

以上のような男性の女性に対する「おまえ」47例はすべて、例（1）で見た『ダメ恋』の黒沢と柴田、例（2）（3）で見た『好きな人』の夏向と桜井の間でのみ用いられていた。本ドラマにおいて2人称代名詞の「おまえ」は、男性が女性を心理的に近い存在として捉えていることを示し、その相手に対して否定的な事柄や不満をおつけるとき、また、それとは反対に、強い愛情を訴えるときに用いられる対称詞であることが分かった。

4.2.2 女性が男性に対して用いた「あんた」

次に、女性が男性に対して用いた「あんた」の会話例を観察する。女性が男性に対して用いた「あんた」12例は、すべて『好きな人』の桜井が夏向に対して用いたものであった。以下に例を挙げる。

例（４）

桜井（女）：あんた、絶対、友達いないでしょ。性格に問題があるって、気付いてますか？

夏向（男）：……。＜沈黙＞ 『好きな人』第1話

例（４）では、出会って間もない夏向に桜井が丁寧体を用いていることから、まだ親しい関係とは捉えていないことが分かる。しかしながら、「砕けた話し方をしている人や敬意を必要としない人に対して使う傾向がある」（黒須2008：p.192）「あんた」を用いているのは、これ以前に桜井が、夏向が年下であることを知ったことと、夏向の生意気な口の利き方に腹を立てていることによると思われる。この「あんた」は「あんたには友達がないでしょ」という文の一部とも考えられるが、やはり「相手を特定して念押し」し、「あんたのような性格に問題がある人に友達がいるはずがない」と強く非難していると考えられる。

例（５）

夏向（男）：食わなくても分かんだよ。おまえのケーキなんて。

桜井（女）：あんた、それでも、シェフ？味も見ないで、決めつけるなんて、あんた、それでもシェフ？

『好きな人』第1話

例（５）は、夏向が、桜井の作ったケーキを「おいしいはずがない」と言って拒否する場面である。自分の作ったケーキを食べずに否定された桜井は、「あんた、それでも、シェフ？」と、夏向の行為がシェフの名にふさわしくないと強く抗議し始め、その抗議の文頭に「あんた」を用いている。この「あんた」は、どちらも疑問文の主語とも言えるが、

必須のものではなく、やはり「相手を特定して念押しする」ものと考えられる。ここでも「あなた」を用いて相手を明確に特定したあとに、相手に対する強い不満と抗議を表明している。また、ここでは桜井は夏向に対して普通体を用いており、夏向を近い関係で捉えていることが分かる。

以上のことから、本ドラマにおける「あなた」は、女性が男性に対して相手に対する不満、非難、抗議を表明するときに用いられる対称詞であることが分かった。

4. 3女性による「役職名」と「～くん」の用法

次に、女性の方が圧倒的に多かった「役職名」と「～くん」について観察する。表4は女性が「役職名」を、表5は「～くん」を、それぞれ対称詞として使う場合の聞き手の性別を示したものである。

表4. 女性による「役職名」の使用

		使用例数 (%)				
話し手	聞き手	先輩	主任	マスター	部長	合計
女性	男性	0 (0.0)	59 (95.2)	2 (3.2)	1 (1.6)	62 (100.0)
	女性	11 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	11 (100.0)
	合計	11 (15.1)	59 (80.8)	2 (2.7)	1 (1.4)	73 (100.0)

表5. 女性による「～くん」の使用

		使用例数 (%)		
話し手	聞き手	姓+くん	名前+くん	合計
女性	男性	17 (58.6)	12 (41.4)	29 (100.0)
	女性	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	合計	17 (58.6)	12 (41.4)	29 (100.0)

表4からは、「先輩」以外の「役職名」はすべて男性に対して用いられていることが分かる。人間関係を調べてみると、男性に対して用いられた「役職名」は、親疎関係では親が59例、疎が1例でほとんどが親であり、上限関係ではすべて目上に対するものであった。表5の「～くん」は、「姓＋くん」も「名前＋くん」もすべて男性に対して用いられていた。人間関係を調べてみると、男性に対して用いられた「～くん」は、親疎関係では親が28例、疎が1例でほとんどが親で、上限関係では同等が27例、目下が2例であった。

以上のことから、本ドラマでは、女性が男性に対して用いる「役職名」は親しい目上の人物に対して用いられる対称詞であり、女性が男性に対して用いる「～くん」は、親しい同等の人物に対して用いられる対称詞であると言える。以下、それぞれについて具体的な会話例を観察する。

4.3.1 女性が用いた「役職名」の用法

女性が女性に対して用いた「役職名」11例は、すべて「先輩」であり、すべて『好きな人』の桜井（女）と若葉（女）の会話において使われていた。以下に例を示す。

例（6）

若葉（女）：インストール完了！先輩、インスタ始めちゃってください。

桜井（女）：どうして？

若葉（女）：リア充になるためですよ。 『好きな人』 第1話

例（6）は、女性の若葉（20代）と女性の桜井（27歳）の会話である。若葉と桜井はかつて一緒にケーキ屋で働いたことがあり、その時から若

葉は桜井を「先輩」と呼んでいたが、若葉は解雇された桜井をそのまま「先輩」と呼び続けている。ここでの「先輩」は「呼びかけ語」（小林1999）であり、丁寧体とともに用いられていることから、最初に設定された「目上の同僚」という人間関係が示されている。

一方、女性が男性に対して用いた「役職名」は「主任」がほとんど（59例、95.2%）で、すべて『ダメ恋』における柴田（女）の黒沢（男）に対するものであった。以下に例を示す。

例（7）

柴田（女）：お腹すきました。主任、今日のまかない、大人様ランチにしてください。

黒沢（男）：おまえに大人様ランチはまだ早い。

柴田（女）：はあ！？ 『ダメ恋』第10話

例（1）で見たように、現在黒沢は柴田にとって「主任」ではないのだが、柴田は黒沢を元の職場の役職名で呼んでいる。例（6）同様に、丁寧体の中で元の職場の「役職名」を用いていることから、柴田は最初に設定された「目上の上司」という人間関係を現在も意識していることが分かる。

4.3.2 女性が用いた「～くん」の用法

女性が用いた「～くん」29例はすべて男性に対するものであり、そのうち、「姓+くん」が17例（58.6%）、「名前+くん」が12例（41.4%）であった。以下に例を示す。

例（８）

柴田（女）：最上くん、何で来ちゃうの？

最上（男）：思ったより、早く実家から戻れたんで。

『ダメ恋』第6話

例（８）は男性の最上（26歳）と女性の柴田（30歳）の会話である。2人は、柴田が新しく就職した会社で働く同僚であり、恋人同士である。柴田は、実家に戻っていた最上がアルバイト先の店に来たので、「最上くん、何で来ちゃうの？」と質問して驚きを表している。柴田が恋人の最上を「姓＋くん」と呼ぶのは、最上が職場の同僚であるためと考えられ、恋人関係になっても対称詞は変化していないことが分かる。この場合の「最上くん」は、「最上くんがなんで来るのか」という文の主語とも、また、突然現れた目の前の相手を「最上くん」と呼びかけるものとも考えられる。

小林（1999）は、「[名字] さん」「[名字] 先生」は「注意を喚起するために呼びかけるという形で文頭に来るものが多い」（p.133）ことを指摘しているが、本ドラマの「役職名」「～くん」も、例（６）（７）（８）のように、文頭で注意を喚起する「呼びかけ語」として用いられるものが多かった。

例（９）

冬真^{とうま}（男）：ジャーン

桜井（女）：これ、冬真くんが作ってくれたの？

冬真（男）：そう！

桜井（女）：すごいね。おいしい。

『好きな人』第10話

例（9）は、正月に男性の冬真（21歳）が女性の桜井（27歳）のために料理を作ったときの会話である。冬真が料理を作ったことを知らなかった桜井は、冬真に「これ、冬真くんが作ってくれたの？」と質問して確認している。この場合の「冬真くん」は構文上は主語であるが、疑問文であるので必須ではなく、相手をはっきり特定するために「名前＋くん」を用いたと考えられる。冬真は夏向の弟で、桜井とは親しく、桜井より年下である。桜井は、親しさと年下という認識のもとで相手をはっきり特定するために、「名前＋くん」を選択したと考えられる。

例（8）（9）はどちらも男性の方が年下で親しい関係にあるが、例（8）は女性が男性に「姓＋くん」を、例（9）は「名前＋くん」を用いている。これは、例（8）の最上が柴田の同僚であるのに対して、例（9）の冬真は、職場の同僚ではなく、同じ職場で働く夏向の弟という関係の違いによるものであろう。

4. 4 性別による「呼び捨て」の用法

最後に、男性の方が女性の5倍以上の使用率を占めていた「呼び捨て」の用例を観察する。表6は、男性と女性それぞれが対称詞として「呼び捨て」を用いる際の、聞き手の性別を示したものである。

対称詞として「呼び捨て」を用いるのは、女性よりも男性の方が多いことは4.1の表1で見たが、表6からは、男性が「呼び捨て」を用いる相手は男性よりも女性の方が多いことが分かる。さらに、女性を「呼び捨て」にするのは名前（15.1%）よりも姓（84.8%）の方が圧倒的に多い。一方、女性も「呼び捨て」を用いることがあり、そのほとんどが男性の名前を「呼び捨て」にする場合であった。人間関係を調べると、男性が女性の姓を「呼び捨て」にするのは、すべて『ダメ恋』における黒沢の柴田に対するもので、女性が男性の名前を「呼び捨て」にするのは、『好きな人』における桜井の夏向に対するものが5例、母親が幼い息子

を「呼び捨て」にするものが2例であった。

表6. 性別による「呼び捨て」の用法

				使用例数 (%)
話し手	聞き手	姓	名前	合計
男性	男性	0 (0.0)	12 (100.0)	12 (100.0)
	女性	28 (84.8)	5 (15.1)	33 (100.0)
女性	男性	0 (0.0)	7 (100.0)	7 (100.0)
	女性	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)

以下、会話例を観察する。

例 (10)

黒沢 (男) : 柴田、アホな顔して突っ立って、また変なもんでも食ったのか。

柴田 (女) : 邪魔しないでくださいよ、全力で幸せをかみしめてたんです。 『ダメ恋』 第6話

例 (10) は、柴田が恋人の最上から指輪をもらって、そのことを思い出しながら黒沢の家の前に立っている場面で、黒沢は柴田の姿を見て、「柴田」と呼びかけている。この文頭の「柴田」は注意喚起のための「呼びかけ語」であるが、黒沢は柴田の元上司であることから、「姓の呼び捨て」を用いていると考えられる。例 (1) (7) で、柴田が黒沢を「主任」と呼び、ここでは黒沢が「柴田」と姓を「呼び捨て」にしていることから、2人が元の職場の人間関係を現在も共有していることが窺える。

例 (11)

桜井 (女) : じゃあ、早速。聞きたいことリストにしてきたんだ。

質問その1、目玉焼きはしょうゆ派? 塩派?

夏向 (男) : おまえほんとバカだな。

桜井 (女) : ねえ、どっち、夏向。 『好きな人』第6話

例 (11) は、恋人になった桜井と夏向の会話である。桜井は夏向の食べ物のお好みを知りたくて「目玉焼きはしょうゆ派? 塩派?」と尋ねているが、夏向は「おまえほんとバカだな。」とはぐらかし、答えようとしない。はぐらかされた桜井は、さらに「ねえ、どっち、夏向。」と質問し、最後に「夏向」と相手の名前を「呼び捨て」にして呼びかけている。これも、例 (10) 同様に、相手の注意を喚起するための「呼びかけ語」である。桜井の発話は「ねえ」と語尾を延ばし、「どっち?」とかなり簡単な疑問形式を使っており、そこにさらに、男性の名前を「呼び捨て」して相手の注意を自分に向けようとしている。恋人のような非常に親しい相手に対する「呼びかけ語」として、女性が男性の名前を「呼び捨て」にしていることが分かる。例 (4) (5) では、夏向を「あんた」と呼んでいた桜井が、夏向と恋人関係になると、同一人物の名前を「呼び捨て」にして呼びかけるようになることから、人間関係の変化が対称詞の用法によって表されていると言える。男性による女性の名前の「呼び捨て」5例もすべて、夏向が恋人関係になった桜井に対して名前を「呼び捨て」(「美咲」)にして呼びかけるものであった。

5. まとめと今後の課題

本稿では、ドラマの会話における対称詞の使用にはどのように性差が現れているか、対称詞の性差は話し手と聞き手の上下親疎関係とどのよ

うな関係があるか、の2点を研究課題として、2つのドラマ約300分に現れた対称詞を取り出して調査した。その結果、対称詞として①役職名②2人称代名詞③～さん④～ちゃん⑤～くん⑥呼び捨て⑦愛称⑧親族名称の8種類が使われており、男女差の顕著な対称詞は2人称代名詞、「役職名」「～くん」「呼び捨て」であることが分かった。次に、大きな男女差が見られた対称詞の使用について分析した結果、以下のことが観察された。

まず、男性の使用が最も多い2人称代名詞は、女性に対して「おまえ」が多用されていることが分かった。会話例を見ると、「おまえ」の後に、相手を否定したり相手に対する不満、非難、抗議を表明したりする傾向が把握された。また、女性が用いる2人称代名詞の中では「あんた」が最も多く、ほとんどが男性に対して非難や抗議を表明する場合に用いられていた。男性の「おまえ」は、「おまえが好きだ」のように恋心を相手に訴える場面でも使われていたことから、ごく親しい男女間において、「おまえ」「あんた」によって相手を特定し、念を押して指し示すことによって、相手に対して非難や愛情を訴える働きを強めていると考えられる。日常生活ではできるだけ2人称代名詞を使わないという日本語の特徴に反する本ドラマの2人称代名詞の多用は、登場人物間のセリフとしての役割と関係することが推測される。

次に、女性の使用が多い「役職名」「～くん」は、親しい関係の目上と同僚に対して、職場の関係が解消した後も使われ続けており、かつての職場における人間関係を示すものとして対称詞が機能していることが分かった。それは、男性の方が多い「呼び捨て」が、元職場の部下であった女性の姓を「呼び捨て」にするものであったことにも現われている。一方、女性が男性を「呼び捨て」にするのは、恋人関係のような非常に近い関係の男性に呼びかける場合であった。男性を「あんた」と呼

んでいた女性が、また、女性を「おまえ」と呼んでいた男性が、恋人関係になると同一人物の名前を「呼び捨て」にして呼びかけるようになったことから、対称詞は、ドラマにおいて人間関係の変化を表す手段として機能していることが分かった。

以上のことから、ドラマの会話における対称詞は、話し手、聞き手の性別や上下親疎関係によって選択されるだけでなく、男女間のその場の心情を相手に強く訴える手段として、また、自他の関係に対する話し手の意識を表現する手段として用いられていることが明らかになった。

今回の調査は2種類のドラマを対象としたが、どちらも同一人物、特に主役が繰り返し登場するために、対称詞も同一人物のものに偏ってしまった。また、ドラマの展開による人間関係の変化が、同一人物間において用いられる対称詞の用法に及ぼす影響も示唆されたが、今回は詳細な分析までに至らなかった。このような点を踏まえ、ドラマという虚構の世界における対称詞の用法について考察を深めるとともに、対象とする言語資料を実際の自然談話にまで広げることを、今後の課題としたい。

[付記] 本稿は、言語文化研究科 2016 年度「日本語教育特殊演習」における 9 月 29 日、11 月 10 日、12 月 8 日の発表内容を発展させ、まとめたものである。

参考文献

緒方隆文 (2015) 「呼称のカテゴリー分析—自称詞・対称詞・他称詞—」

『筑紫女学園短大学部紀要』第10号、1-13

尾崎喜光 (2005) 「女のことば・男のことば」上野智子・定延利之・佐藤和之・野田春美『ケーススタディ日本語のバラエティ』おうふう、6-11

- 金丸美美（1997）「人称代名詞・呼称」井出祥子編『女性語の世界』明治書院、15-32
- 黒須理沙子（2008）「女ことば・男ことばの研究—差異と変遷—」『日本文学』104巻、187-203
- 小池生夫編（2003）『応用言語学事典』研究社
- 小林美恵子（1999）「自称・対称は中性化するか？」現代日本語研究会編『女性のことば・職場編』ひつじ書房、113-137
- 鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波新書
- 鈴木孝夫（1982）「自称詞と対称詞の比較」『日英語比較講座 文化と社会』第5巻、大修館書店、17-59
- チツラ，フレディ（2014）「言語的性差の三つの次元—対称詞の使用をめぐって—」『大分大学国際教育研究センター年報』巻2012、22-33
- 任利（2009）『「女ことば」は女が使うのかしら？—ことばにみる性差の諸相—』ひつじ書房
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
- 松村瑞子（2001）「日本語の会話に見られる男女差」『比較社会文化』第7巻、69-75
- 水本光美（2010）「テレビドラマ—“ドラマ語”としての「女ことば」—」中村桃子編『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社、89-106
- 盧万才（2009）「日本語と中国語の呼称の待遇的機能」『ポリグロシア』第17巻、85-94